

〔秋春山〕

「水が少なくてもを育てられない」。古代メソポタミア文明を生んだ大河、ユーフラテス川の水量がイラクで激減。上

流トルコに築かれたダムの影響もあるとみられ、イラクの農民が悲鳴を上げている▼トルコはダムを開放し増水したが、「イラクの水利利用に問題がある」との批判もあり、両国の摩擦が拡大している。数日前の外電が伝えた話だ▼地球は「水の惑星」と呼ばれる。

だが、大半は海水で、人間が実際に使えるのはわずか0.01%。この限られた資源をめぐり、紛争・対立が絶えない▼館林市に住む水ジャーナリスト橋本淳司さんの近著『世界が水を奪い合う日・日本が水を奪われる日』（PH P研究所）は、トルコとイラクの関係を含めて、世界各地の水争いを紹介。島国の日本もペットボトルの水や食料輸入など水をめぐる経済競争の渦中にあることを指摘する

▼水問題は、著者によると、地球と人間社会との不調和が生んだ問題の一つ。エネルギー問題、食料問題と密接に絡み、これら〈三つ子〉の問題が地球温暖化という現象として現れてきたという▼これらを解決するには何が必要か。

〈「地球環境」「経済活動」「地域社会」の三つをバランスよく成り立たせることが重要〉と橋本さん。目下、「水の週間」（7日まで）。地球の現状を変えていかなければ、水争奪の惑星と呼ばれそうだ。